

ドライブウェイ沿いにおける国外外来種の侵入状況について

1. 調査目的

ドライブウェイ沿いにおける国外外来種の侵入状況の現状を把握するために調査を実施した。

2. 調査時期：平成 21 年 8 月、10 月（10 月は補足調査）

3. 調査内容および調査手法

駐車場から 6.4km 地点の利用調整地区開始地点までのドライブウェイ沿いを踏査し、道路沿いや道路に面した法面、造成地の草本層に確認される植物種を記録した。

調査は、ドライブウェイ沿いの北側、南側をそれぞれ 0.2km ずつに区分（北側、南側各 32 区分、計 64 区分）し、調査区間ごとに確認したすべての植物種を記録した。

調査の結果、ドライブウェイ沿いで確認された国外外来種は 26 種、このうち要注意外来生物は 9 種であった。特定外来生物は確認されなかった（表 1）。

表 1 ドライブウェイ沿いで確認された国外外来種

種名	要注意 外来生物	北側	南側	計	出現率 (%)
オオウシノケグサ		30	32	62	96.9
コヌカグサ		26	29	55	85.9
セイヨウタンポポ	○	27	27	54	84.4
オニウシノケグサ	○	27	23	50	78.1
シロツメクサ		23	21	44	68.8
ナガハグサ		18	20	38	59.4
オランダミミナグサ		17	19	36	56.3
ナギナタガヤ		17	17	34	53.1
ヒメスイバ		13	21	34	53.1
シラゲガヤ		11	15	26	40.6
ヒメジョオン	○	10	7	17	26.6
シナダレスズメガヤ	○	10	6	16	25.0
タチイヌノフグリ		4	2	6	9.4
オオアレチノギク	○	4		4	6.3
ヒメムカシヨモギ	○	4		4	6.3
コニシキソウ		1	3	4	6.3
コハコベ		1	3	4	6.3
ハルジオン	○	1	3	4	6.3
オオイヌノフグリ		2		2	3.1
カモガヤ	○	2		2	3.1
セイヨウノコギリソウ		2		2	3.1
ベニカタバミ		2		2	3.1
アレチマツヨイグサ		1	1	2	3.1
コメツブツメクサ		1	1	2	3.1
ベニバナボロギク			1	1	1.6
メマツヨイグサ	○		1	1	1.6

※ 出現率：出現した区間数/全区間数（64）×100

※ 特定外来種は確認されていない。

※ 要注意外来生物：外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課される種ではないが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いする種。

調査の結果、出現率が多い国外外来種はオオウシノケグサ、コヌカグサ、オニウシノケグサ、シロツメクサ、ナガハグサなどの法面緑化に利用される種であり、中でもオオウシノケグサ、コヌカグサは確認された調査区間において高い被度で群落を形成している場合が多かった。また、国外外来種ではないが、ドライブウェイ沿いの南側の造成地では、シバが群落を形成しており、緑化植物由来であると考えられる。

調査区間ごとの在来種と国外外来種の確認種数を図1に示した。国外外来種の確認種数は、平均7.9種で、11種以上確認された調査区間は北側、南側をあわせて5区間あった(図2、3)。

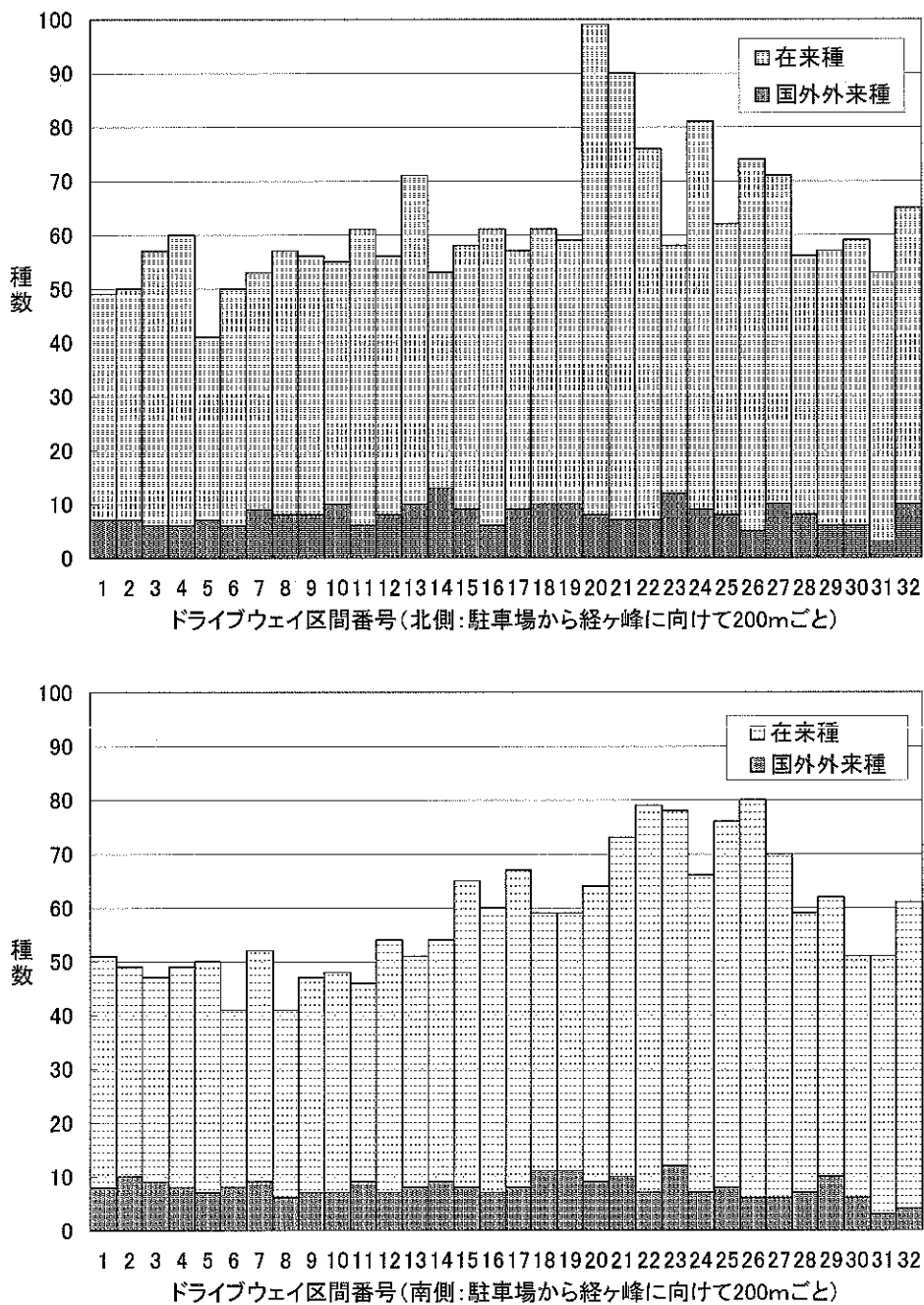


図1 ドライブウェイ沿いで確認された植物の在来種数と国外外来種数

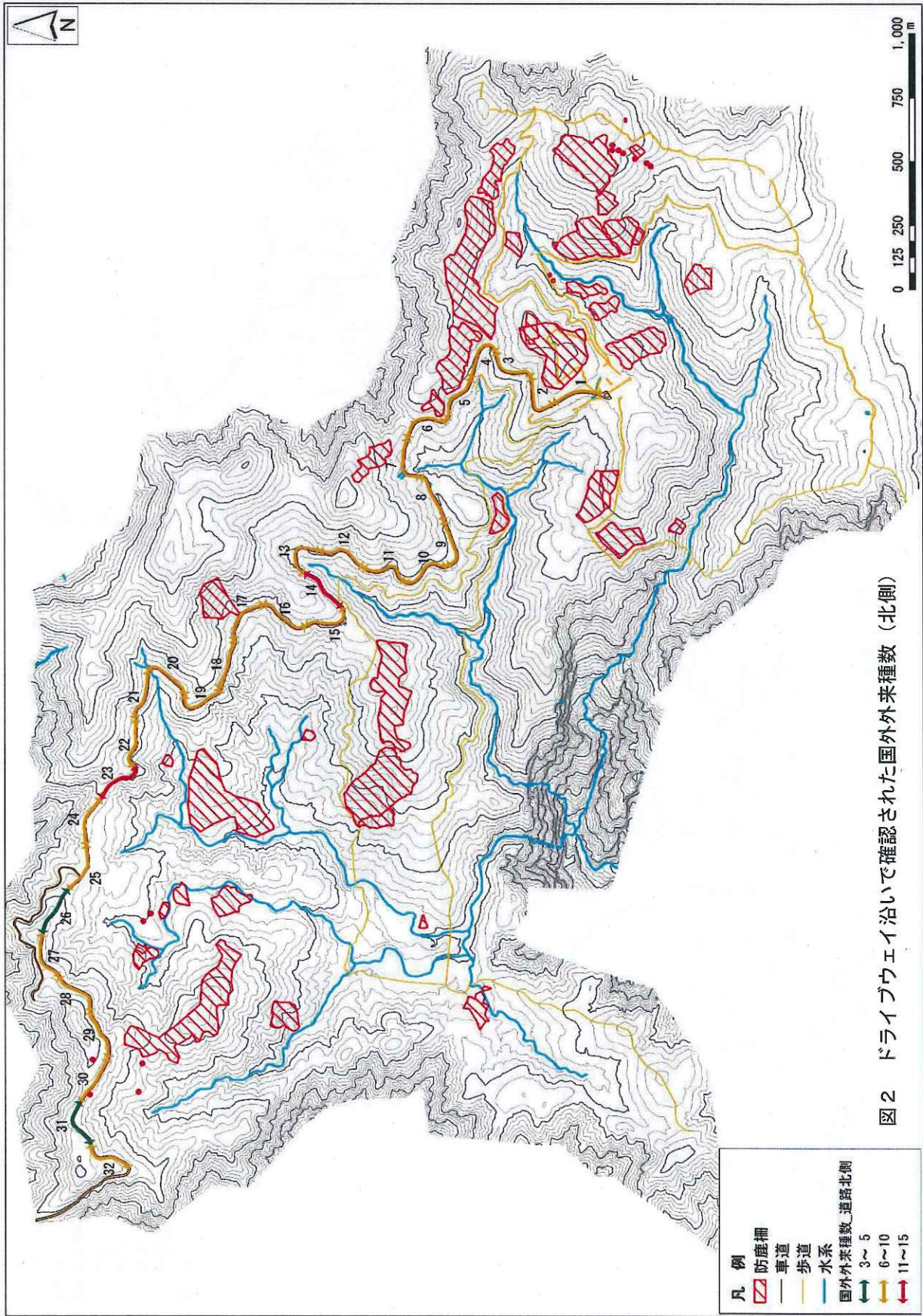


図2 ドライブウェイ沿いで確認された国外外来種数（北側）

